

エコアクション21 環境経営レポート



【対象期間：2023年1月～2023年12月】

発行年月日 2024年 3月 29日

有限会社 竹村総合建設

目 次

1. 組織の概要
2. 対象範囲（認証・登録範囲）、レポートの対象期間及び発行日
3. 環境経営方針
4. 実施体制
5. 環境経営目標
6. 環境経営計画
7. 環境経営目標の実績、次年度の環境経営目標
8. 環境経営計画の取組結果とその評価、次年度の環境経営計画
9. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無
10. 代表者による全体評価と見直し・指示

発行日：2024年 3月29日

発行責任者：環境管理責任者 星野 努

次回発行予定： 2025年 3月頃

1. 組織の概要

【事業所名】 有限会社 竹村総合建設

【代表者氏名】 代表取締役 金谷 光人

【所在地】 本 社 〒787-1601 高知県四万十市西土佐江川崎1958
 リサイクル工場 〒787-1601 高知県四万十市西土佐江川崎1500

【環境管理責任者氏名及び連絡先】

環境管理責任者氏名 星野 努
 連絡先 Tel : 0880-52-1521
 Fax : 0880-52-2377
 E-mail : take2001@sage.ocn.ne.jp

【事業活動の内容】 建設業

産業廃棄物処理業(収集運搬・中間処理)

【事業規模】 設立年月日 昭和35年 5月 6日設立
 資本金 2,100万円
 完成工事高 1,104,187千円 (決算時期 2023年12月31日)
 兼業事業売上高 78,547千円 (決算時期 2023年12月31日)
 従業員数 29人 (2023年 3月末時点)
 事業所面積 事務所床面積 145㎡
 車庫・倉庫面積 2,325㎡
 リサイクル工場面積 8,581㎡

業 種	許 可 の 内 容		
建設業	許可番号	高知県知事許可 特定 2 第 000575 号	
	許可年月日	令和 2年 7月 4日	
	許可業種	土木工事業、とび・土工工事業、管工事業、鋼構造物工事業 舗装工事業、塗装工事業、造園工事業、水道施設工事業 解体工事業 (9業種)	
	許可有効期限	令和 7年 7月 3日	
産業廃棄物 収集運搬業 (高知県)	許可番号	高知県知事許可 03910052936	
	許可年月日	令和 5年 3月10日	
	許可有効期限	令和10年 3月 9日	
	事業の区分	収集・運搬(積替え又は保管を含む)	
	産業廃棄物の種類	廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、ゴムくず 金属くず、ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず がれき類 (8品目) ※石綿含有は含まない	
	積替え保管	所在地	高知県四万十市西土佐江川崎字上平迫1500
		面積	130.0㎡
		種類	廃プラスチック類、ゴムくず、金属くず、 ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず
		保管上限 積上げ高さ	105.8㎡ 1.8m
	許可車両	10 t ダンプ 1台、4 t 回送 1台、4 t 特装 1台、4 t ダンプ 3台 3 t ダンプ 2台、2 t ダンプ 1台、軽ダンプ 1台、コンテナ車 1台	

産業廃棄物 収集運搬業 (愛媛県)	許可番号	愛媛県知事許可 03809052936		
	許可年月日	令和 4年 8月 8日		
	許可有効期限	令和 9年 8月 7日		
	事業の区分	収集・運搬(積替え又は保管を含まず)		
	産業廃棄物の種類	廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、ゴムくず 金属くず、ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず がれき類 (8品目) ※石綿含有は含まない		
	許可車両	10t ダンプ 1台、4t 特装 1台、4t ダンプ 3台 3t ダンプ 2台、2t ダンプ 1台、軽ダンプ 1台、コンテナ車 1台		
産業廃棄物 処分業 (高知県)	許可番号	高知県知事許可 03920052936		
	許可年月日	令和 3年 2月17日		
	許可有効期限	令和 8年 2月 4日		
	事業の区分	中間処理(焼却・破砕)		
	産業廃棄物の種類	焼却	木くず、紙くず、繊維くず	
		破砕	がれき類、木くず ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず	
	施設の種類の種類	破砕施設(がれき類)		
	産業廃棄物の種類	がれき類、ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず		
	設置場所	高知県四万十市西土佐江川崎字上平迫1500、1501		
	設置年月日	平成12年12月20日		
	設置許可番号	13廃第485号(使用届出書受理)		
	処理能力	54t/時(432t/日)		
	施設の種類の種類	破砕施設(がれき類)		
	産業廃棄物の種類	がれき類、ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず		
	設置場所	高知県四万十市西土佐江川崎字上平迫1500、1501		
	設置年月日	平成26年 9月19日		
	設置許可番号	25高環対第392号		
	処理能力	33t/時(264t/日)		
	施設の種類の種類	破砕施設(木くず)		
	産業廃棄物の種類	木くず		
	設置場所	高知県四万十市西土佐江川崎字ツツラ川山3060-26		
	設置年月日	令和 4年 9月11日		
	設置許可番号	元高環対第187号		
処理能力	25.1t/時(200.8t/日)			
施設の種類の種類	破砕施設(廃石膏ボード)			
産業廃棄物の種類	ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず(廃石膏に限る)			
設置場所	高知県四万十市西土佐江川崎字ツツラ川山3060-25			
設置年月日	平成16年 6月30日			
処理能力	0.5t/時(4t/日)			
施設の種類の種類	焼却施設			
産業廃棄物の種類	木くず、紙くず、繊維くず			
設置場所	高知県四万十市西土佐江川崎字ツツラ川山3060-25			
設置年月日	平成16年 7月12日			
処理能力	186kg/時			

事業計画の概要

1. 事業の全体計画（変更許可申請時には変更部分を明確にして記載すること）
（取扱う（特別管理）産業廃棄物の種類、処分業に関連する業務概要等）

- ①がれき類及びガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くずは、自社及び排出事業者又は収集運搬業者が中間処分場に搬入し、破碎施設により破碎処分する。

破碎物は、路盤材、骨材等として再生し土木建設業者に販売する。

中間処理で発生した金属くずは、中間処理業者へ持込み処分する。

- ②木くず（枝葉・幹・根株・竹など）は、自社及び排出事業者又は収集運搬業者が中間処理場に搬入し、破碎施設により破碎処分する。

破碎後のチップは、米ぬか、鶏ふん、発酵菌を加えて堆肥化し販売。
（特殊肥料生産業者届出済み 特325）

木くず（建築廃材）は、自社及び排出事業者又は収集運搬業者が中間処理場に搬入し、焼却施設により焼却処分する。

焼却灰・煤塵については、（公財）エコサイクル高知にて埋立処分する。

- ③ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず（廃石膏ボード）は、自社及び排出事業者又は収集運搬業者が中間処理場に搬入し、破碎施設により破碎処理する。

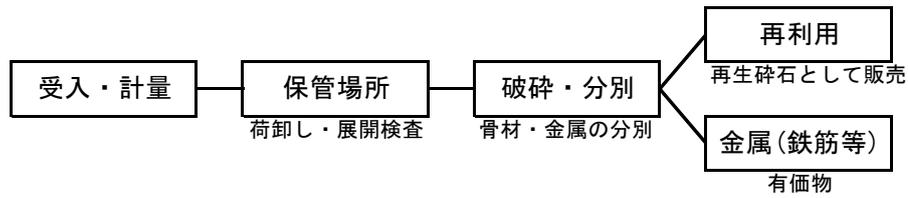
破碎機にて、廃石膏と紙に分別し紙は自社焼却施設において焼却。
廃石膏・焼却灰・煤塵については、（公財）エコサイクル高知にて埋立処分する

- ④紙くず、繊維くずは、自社及び排出事業者又は収集運搬業者が中間処理場に搬入し、焼却施設において焼却処分する。

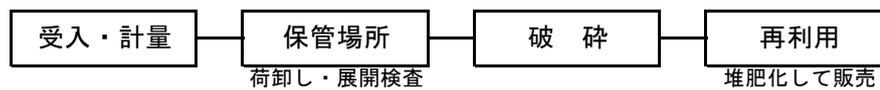
焼却灰・煤塵については、（公財）エコサイクル高知にて埋立処分する。

処理工程図

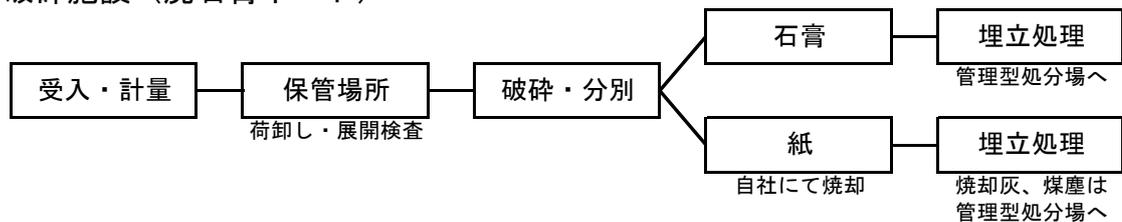
破砕施設（がれき類、ガラス・コンクリートくず及び陶磁器くず）



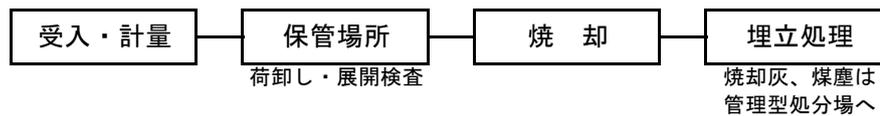
破砕施設（木くず）（枝葉、幹、根、竹など）



破砕施設（廃石膏ボード）



焼却施設（木くず・紙くず・繊維くず）（木くず＝建築廃材）



処理実績（2023. 1. 1～2023. 12. 31）

処理品目	処理方法	中間処理量(t)	収集運搬量(t)
がれき類	破砕	6,613	0
木くず(枝葉、根、竹など)	破砕	776	0
木くず、紙くず、繊維くず	焼却	110	0
廃石膏ボード	破砕	1.60	0
合計		7,500.60	0

2. 対象範囲、レポートの対象期間及び発行日

【対象範囲（認証・登録範囲）】

有限会社 竹村総合建設 本社

【対象範囲（認証・登録範囲）の拡大】

【レポートの対象期間】

2023年 1月～2023年12月 （12ヶ月間）

【環境経営レポートの発行日】

2024年 3月29日

【次回環境経営レポートの発行予定日】

2025年 3月31日

（2024年1月～2024年12月分の1年間を対象）

【作成責任者】

環境管理責任者 星野 努

3. 環境経営方針

【環境経営理念】

当社は、建設業・産業廃棄物処理業（処分業・収集運搬業）の事業活動により発生する環境負荷を把握し、全社員が環境保全に取り組み、地域に貢献できる企業活動を推進します。

【環境経営方針】

環境経営理念に基づき、以下の環境経営方針を定め積極的に取り組みます。

1. 当社は、環境経営活動の継続的な改善に努めます。
2. 事業活動に関連する環境関連法規、条例等を遵守します。
3. 環境負荷の低減を図るため、次に掲げる項目に積極的に取り組みます。
 - ① 燃料、電力の使用削減による二酸化炭素排出量の削減
 - ② 廃棄物排出量の削減
 - ③ 受託した産業廃棄物のリサイクル率向上
 - ④ 水使用量の削減
 - ⑤ 化学物質の把握（取扱いについての周知徹底）
4. 環境配慮型工法を推進し、環境に優しい材料の使用を促進します。
5. 地域貢献活動を積極的に行います。

環境経営方針は、全社員に周知するとともに、社外に公表します。

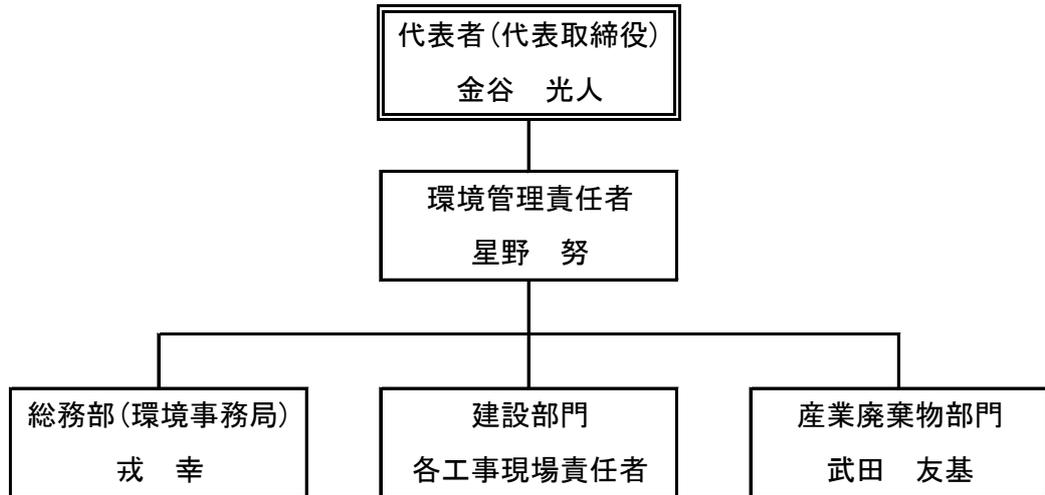
制定日 2014年 1月 6日
(改定日 2019年12月28日)

有限会社 竹村総合建設

代表取締役 金谷 光人

4. 実施体制

(有)竹村総合建設 エコアクション21 組織図



	役割・責任・権限
代表者（社長）	<ul style="list-style-type: none"> ・環境経営に関する統括責任 ・環境経営システムの実施に必要な人、設備、費用、時間、技能、技術者を準備 ・環境管理責任者を任命 ・環境経営方針の策定・見直し及び全従業員へ周知 ・環境経営目標・環境経営計画を承認 ・代表者による全体の評価と見直しを実施 ・環境経営レポートの承認
環境管理責任者	<ul style="list-style-type: none"> ・環境経営システムの構築、実施、管理 ・環境関連法規等の取りまとめ表を承認 ・環境経営目標・環境経営計画を確認 ・環境経営計画の取組結果を代表者へ報告 ・環境経営レポートの確認
環境事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・環境管理責任者の補佐、EA21推進委員会の事務局 ・環境負荷の自己チェック及び環境への取り組みの自己チェックの実施 ・環境経営目標、環境経営計画の作成 ・環境経営計画の実績集計 ・環境関連法規等取りまとめ表の作成 ・環境関連法規等取りまとめ表に基づく遵守評価の実施 ・環境関連の外部コミュニケーションの窓口 ・環境経営レポートの作成、公開(事務所に備付けと地域事務局への送付)
各工事現場責任者 産業廃棄物部門	<ul style="list-style-type: none"> ・自部門における環境経営システムの実施 ・自部門における環境経営方針の周知 ・自部門の従業員に対する教育訓練の実施 ・自部門に関連する環境経営計画の実施及び達成状況の報告 ・特定された項目の手順書作成及び運用管理 ・自部門の特定された緊急事態への対応のための手順書作成、テスト、訓練を実施、記録の作成 ・自部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施
全従業員	<ul style="list-style-type: none"> ・環境経営方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚 ・決められたことを守り、自主的・積極的に環境経営活動へ参加

5. 環境経営目標

1. 12ヵ月間(2023.1.1~2023.12.31)の目標

【事務所】

項目	単位	基準値(平均値)	
		2018年1月~ 2019年12月	2023年1月~ 2023年12月
CO ₂ 排出量	kg-CO ₂	27,789	26,678 (-4%)
電力使用量	kWh	11,716	11,247 (-4%)
ガソリン	L	8,190	7,862 (-4%)
軽油	L	672	645 (-4%)
灯油	L	424	407 (-4%)
液化石油ガス(LPG)	kg	8	8 (-4%)
水使用量	m ³	165	158 (-4%)
一般廃棄物排出量	kg	795	763 (-4%)
社会貢献活動	回	12	12

- ・ ()は、基準値に対する削減目標
- ・ 電力のCO₂排出係数は四国電力実排出係数0.510kg-CO₂/kWhを使用(平成28年度実績値)
- ・ 一般廃棄物排出量はゴミ袋1袋当たり1kgとし算出
- ・ 社会貢献活動は、ロードボランティア活動回数にて算出

【現場】

項目	単位	基準値(平均値)	
		2018年1月~ 2019年12月	2023年1月~ 2023年12月
CO ₂ 排出量	kg-CO ₂	107,596	103,292 (-4%)
電力使用量	kWh	0	0 (-4%)
ガソリン	L	6,702	6,434 (-4%)
軽油	L	34,450	33,072 (-4%)
灯油	L	85	82 (-4%)
液化石油ガス(LPG)	kg	985	946 (-4%)
産業廃棄物排出量	t	3,502	3,362 (-4%)
化学物質の把握	件	全件	全件
環境配慮型工法及び資材	件	全件	全件
社会貢献活動	件	全件	全件

- ・ ()は、基準値に対する削減目標
- ・ 電力のCO₂排出係数は四国電力実排出係数0.510kg-CO₂/kWhを使用(平成28年度実績値)
- ・ 化学物質については、取扱いについての周知徹底をする
- ・ 環境配慮型工法及び資材は、請負金額2000万円以上の工事を対象とする

【産業廃棄物処理業】

項目	単位	基準値(平均値)	
		2018年1月～ 2019年12月	12ヵ月間の目標 2023年1月～ 2023年12月
CO ₂ 排出量	kg-CO ₂	103,224	99,095 (-4%)
電力使用量	kWh	14,890	14,294 (-4%)
ガソリン	L	192	184 (-4%)
軽油	L	34,021	32,660 (-4%)
灯油	L	2,976	2,857 (-4%)
液化石油ガス(LPG)	kg	0	0 (-4%)
水使用量	m ³	38	36 (-4%)
産業廃棄物再資源化率	%	99	100

- ・ ()は、基準値に対する削減目標
- ・ 電力のCO₂排出係数は四国電力実排出係数0.510kg-CO₂/kWhを使用(平成28年度実績値)
- ・ 処分場における水利用は地下水のくみ取り、計測なし
- ・ 産業廃棄物再資源化率とは、受入れした産業廃棄物に対して、再資源化を行った割合である

2. 中長期目標 (3～5年先)

【事務所】

項目	単位	2018年～2019年 (2年実績の平均値)	2020年1月～ 2020年12月 (12ヶ月)	2021年1月～ 2021年12月 (12ヶ月)	2022年1月～ 2022年12月 (12ヶ月)	2023年1月～ 2023年12月 (12ヶ月)
		実績(基準値)	目標	目標	目標	目標
CO ₂ 排出量	kg-CO ₂	27,789	27,512 (-1%)	27,234 (-2%)	26,956 (-3%)	26,678 (-4%)
電力使用量	kWh	11,716	11,599 (-1%)	11,482 (-2%)	11,365 (-3%)	11,247 (-4%)
ガソリン	L	8,190	8,108 (-1%)	8,026 (-2%)	7,944 (-3%)	7,862 (-4%)
軽油	L	672	665 (-1%)	659 (-2%)	652 (-3%)	645 (-4%)
灯油	L	424	420 (-1%)	416 (-2%)	411 (-3%)	407 (-4%)
液化石油ガス(LPG)	kg	8	8 (-1%)	8 (-2%)	8 (-3%)	8 (-4%)
水使用量	m ³	165	163 (-1%)	162 (-2%)	160 (-3%)	158 (-4%)
一般廃棄物排出量	kg	795	787 (-1%)	779 (-2%)	771 (-3%)	763 (-4%)
社会貢献活動	回	12	12	12	12	12

- ・ ()は、基準値に対する削減目標
- ・ 電力のCO₂排出係数は四国電力実排出係数0.510kg-CO₂/kWhを使用(平成28年度実績値)
- ・ 一般廃棄物排出量はゴミ袋1袋当たり1kgとし算出
- ・ 社会貢献活動は、ロードボランティア活動回数にて算出

【現場】

項目	単位	2018年～2019年 (2年実績の平均値)	2020年1月～ 2020年12月 (12ヶ月)	2021年1月～ 2021年12月 (12ヶ月)	2022年1月～ 2022年12月 (12ヶ月)	2023年1月～ 2023年12月 (12ヶ月)
		実績(基準値)	目標	目標	目標	目標
CO ₂ 排出量	kg-CO ₂	107,596	106,520 (-1%)	105,444 (-2%)	104,368 (-3%)	103,292 (-4%)
電力使用量	kWh	0	0 (-1%)	0 (-2%)	0 (-3%)	0 (-4%)
ガソリン	L	6,702	6,635 (-1%)	6,568 (-2%)	6,501 (-3%)	6,434 (-4%)
軽油	L	34,450	34,106 (-1%)	33,761 (-2%)	33,417 (-3%)	33,072 (-4%)
灯油	L	85	84 (-1%)	83 (-2%)	82 (-3%)	82 (-4%)
液化石油ガス(LPG)	kg	985	975 (-1%)	965 (-2%)	955 (-3%)	946 (-4%)
産業廃棄物排出量	t	3,502	3,467 (-1%)	3,432 (-2%)	3,397 (-3%)	3,362 (-4%)
化学物質の把握	件	全件	全件 継続	全件 継続	全件 継続	全件 継続
環境配慮型工法及び資材	件	全件	全件 継続	全件 継続	全件 継続	全件 継続
社会貢献活動	件	全件	全件 継続	全件 継続	全件 継続	全件 継続

- ・ ()は、基準値に対する削減目標
- ・ 電力のCO₂排出係数は四国電力実排出係数0.510kg-CO₂/kWhを使用(平成28年度実績値)
- ・ 化学物質については、取扱いについての周知徹底をする
- ・ 環境配慮型工法及び資材は、請負金額2000万円以上の工事を対象とする

【産業廃棄物処理業】

項目	単位	2018年～2019年 (2年実績の平均値)	2020年1月～ 2020年12月 (12ヶ月)	2021年1月～ 2021年12月 (12ヶ月)	2022年1月～ 2022年12月 (12ヶ月)	2023年1月～ 2023年12月 (12ヶ月)
		実績 (基準値)	目標	目標	目標	目標
CO ₂ 排出量	kg-CO ₂	103,224	102,192 (-1%)	101,159 (-2%)	100,127 (-3%)	99,095 (-4%)
電力使用量	kWh	14,890	14,741 (-1%)	14,592 (-2%)	14,443 (-3%)	14,294 (-4%)
ガソリン	L	192	190 (-1%)	188 (-2%)	186 (-3%)	184 (-4%)
軽油	L	34,021	33,681 (-1%)	33,341 (-2%)	33,000 (-3%)	32,660 (-4%)
灯油	L	2,976	2,946 (-1%)	2,916 (-2%)	2,887 (-3%)	2,857 (-4%)
液化石油ガス(LPG)	kg	0	0 (-1%)	0 (-2%)	0 (-3%)	0 (-4%)
水使用量	m ³	38	38 (-1%)	37 (-2%)	37 (-3%)	36 (-4%)
産業廃棄物再資源化率	%	99	100	100	100	100

- ・ ()は、基準値に対する削減目標
- ・ 電力のCO₂排出係数は四国電力実排出係数0.510kg-CO₂/kWhを使用(平成28年度実績値)
- ・ 処分場における水利用は地下水のみ取り、計測なし
- ・ 産業廃棄物再資源化率とは、受入れした産業廃棄物に対して、再資源化を行った割合である

3. 中長期目標 (3～5年先)

【事務所】

項目	単位	2019年～2023年 (5年実績の平均値)	2024年1月～ 2024年12月 (12ヶ月)	2025年1月～ 2025年12月 (12ヶ月)	2026年1月～ 2026年12月 (12ヶ月)	2027年1月～ 2027年12月 (12ヶ月)
		実績(基準値)	目標	目標	目標	目標
CO ₂ 排出量	kg-CO ₂	35,697	35,340 (-1%)	34,983 (-2%)	34,626 (-3%)	34,270 (-4%)
電力使用量	kWh	14,613	14,467 (-1%)	14,321 (-2%)	14,175 (-3%)	14,028 (-4%)
ガソリン	L	8,166	8,084 (-1%)	8,003 (-2%)	7,921 (-3%)	7,839 (-4%)
軽油	L	2,817	2,789 (-1%)	2,761 (-2%)	2,732 (-3%)	2,704 (-4%)
灯油	L	670	663 (-1%)	657 (-2%)	650 (-3%)	643 (-4%)
液化石油ガス(LPG)	kg	14	14 (-1%)	14 (-2%)	14 (-3%)	13 (-4%)
水使用量	m ³	250	248 (-1%)	245 (-2%)	243 (-3%)	240 (-4%)
一般廃棄物排出量	kg	747	740 (-1%)	732 (-2%)	725 (-3%)	717 (-4%)
社会貢献活動	回	12	12	12	12	12

- ・ ()は、基準値に対する削減目標
- ・ 電力のCO₂排出係数は四国電力調整後排出係数0.532kg-CO₂/kWhを使用(令和3年度実績値)
- ・ 一般廃棄物排出量はゴミ袋1袋当たり1kgとし算出
- ・ 社会貢献活動は、ロードボランティア活動回数にて算出

【現場】

項目	単位	2019年～2023年 (5年実績の平均値)	2024年1月～ 2024年12月 (12ヶ月)	2025年1月～ 2025年12月 (12ヶ月)	2026年1月～ 2026年12月 (12ヶ月)	2027年1月～ 2027年12月 (12ヶ月)
		実績(基準値)	目標	目標	目標	目標
CO ₂ 排出量	kg-CO ₂	153,508	151,973 (-1%)	150,438 (-2%)	148,902 (-3%)	147,367 (-4%)
電力使用量	kWh	0	0 (-1%)	0 (-2%)	0 (-3%)	0 (-4%)
ガソリン	L	9,454	9,359 (-1%)	9,265 (-2%)	9,170 (-3%)	9,076 (-4%)
軽油	L	49,769	49,271 (-1%)	48,774 (-2%)	48,276 (-3%)	47,778 (-4%)
灯油	L	213	211 (-1%)	209 (-2%)	207 (-3%)	204 (-4%)
液化石油ガス(LPG)	kg	880	871 (-1%)	862 (-2%)	854 (-3%)	845 (-4%)
産業廃棄物排出量	t	3,026	2,996 (-1%)	2,965 (-2%)	2,935 (-3%)	2,905 (-4%)
化学物質の把握	件	全件	全件 継続	全件 継続	全件 継続	全件 継続
環境配慮型工法及び資材	件	全件	全件 継続	全件 継続	全件 継続	全件 継続
社会貢献活動	件	全件	全件 継続	全件 継続	全件 継続	全件 継続

- ・ ()は、基準値に対する削減目標
- ・ 電力のCO₂排出係数は四国電力調整後排出係数0.532kg-CO₂/kWhを使用(令和3年度実績値)
- ・ 化学物質については、取扱いについての周知徹底をする
- ・ 環境配慮型工法及び資材は、請負金額2000万円以上の工事を対象とする

【産業廃棄物処理業】

項目	単位	2019年～2023年 (5年実績の平均値)	2024年1月～ 2024年12月 (12ヶ月)	2025年1月～ 2025年12月 (12ヶ月)	2026年1月～ 2026年12月 (12ヶ月)	2027年1月～ 2027年12月 (12ヶ月)
		実績 (基準値)	目標	目標	目標	目標
CO ₂ 排出量	kg-CO ₂	105,593	104,537 (-1%)	103,481 (-2%)	102,425 (-3%)	101,369 (-4%)
電力使用量	kWh	13,532	13,397 (-1%)	13,261 (-2%)	13,126 (-3%)	12,991 (-4%)
ガソリン	L	231	229 (-1%)	226 (-2%)	224 (-3%)	222 (-4%)
軽油	L	35,754	35,396 (-1%)	35,039 (-2%)	34,681 (-3%)	34,324 (-4%)
灯油	L	2,254	2,231 (-1%)	2,209 (-2%)	2,186 (-3%)	2,164 (-4%)
液化石油ガス(LPG)	kg	0	0 (-1%)	0 (-2%)	0 (-3%)	0 (-4%)
水使用量	m ³	51	50 (-1%)	50 (-2%)	49 (-3%)	49 (-4%)
産業廃棄物再資源化率	%	99	100	100	100	100

- ・ ()は、基準値に対する削減目標
- ・ 電力のCO₂排出係数は四国電力調整後排出係数0.532kg-CO₂/kWhを使用(令和3年度実績値)
- ・ 処分場における水利用は地下水のみ取り、計測なし
- ・ 産業廃棄物再資源化率とは、受入れした産業廃棄物に対して、再資源化を行った割合である

6. 環境経営計画

【事務所】

期間：2023年 1月 ～ 2023年12月

項目	具体的な取組内容	担当者
電気使用におけるCO ₂ 排出量削減	<ul style="list-style-type: none"> ・長時間使用しないO A機器は電源を切る。 ・使用しない電化製品のコンセントを抜く。 ・昼休み、退社時の消灯を徹底する。 ・空調の温度調整。(20℃~28℃) 	戎 幸
化石燃料使用量におけるCO ₂ 排出量削減	<ul style="list-style-type: none"> ・急発進・急加速は行わない。 ・不要なアイドリングは行わない。 ・タイヤの空気圧、オイル等、車両の点検を定期的に行う。 ・長期退室時は、暖房器具の消火を行い、不必要な稼働は行わない。 	高橋 基
一般廃棄物排出量の削減	<ul style="list-style-type: none"> ・ゴミの分別を行う。 ・両面コピー、両面印刷を行う。 	戎 幸
水使用量の削減	<ul style="list-style-type: none"> ・蛇口の閉め忘れの確認を行う。 	戎 幸
社会貢献活動	<ul style="list-style-type: none"> ・ロードボランティア活動を行う。 	星野 努

【現場】

項目	具体的な取組内容	担当者
化石燃料使用量におけるCO ₂ 排出量削減	<ul style="list-style-type: none"> ・車両の始業点検、定期点検を行う。 ・重機・工事車両のアイドリングストップ。 ・重機作業は過剰な負荷をかけない。 	高橋 基
電気使用におけるCO ₂ 排出量削減	<ul style="list-style-type: none"> ・長時間使用しないO A機器は電源を切る。 ・退社時の消灯を徹底する。 ・電動工具の定期点検・整備を行う。 	市川 政治
産業廃棄物排出量の削減	<ul style="list-style-type: none"> ・再生材料（再生砕石等）を使用する。 ・マニフェストによる管理の徹底。 	市川 政治
化学物質の把握	<ul style="list-style-type: none"> ・資材の入荷量を把握する。 ・正しい取扱いを徹底する。 ・残った資材の処理及び方法を確認する。 	市川 政治
環境配慮工事	<ul style="list-style-type: none"> ・工事中の濁水流出の防止対策を行う。 ・工事中の騒音・振動防止対策を行う。 ・工事中の粉塵の飛散防止対策を行う。 ・ICT技術を取り入れて工期の短縮を行う。 	市川 政治
県内産資材の使用	<ul style="list-style-type: none"> ・資材購入に当り県内産資材を購入する。 	市川 政治
社会貢献活動	<ul style="list-style-type: none"> ・現場周辺の清掃活動を行う。 	市川 政治

【産業廃棄物処理業】

項目	具体的な取組内容	担当者
化石燃料使用量におけるCO ₂ 排出量削減	<ul style="list-style-type: none"> ・車両の始業点検、定期点検を行う。 ・重機、車両のアイドリングストップ。 ・重機作業は過剰な負荷をかけない。 	武田 友基
電気使用におけるCO ₂ 排出量削減	<ul style="list-style-type: none"> ・長時間使用しないO A機器は電源を切る。 ・退社時の消灯を徹底する。 ・破砕機に過剰な負荷をかけない。 	武田 友基
産業廃棄物排出量の削減	<ul style="list-style-type: none"> ・分別処理の徹底。 ・再資源化(リサイクル)の促進。 	武田 友基

7. 環境経営目標の実績、次年度の環境経営目標

12ヶ月間の実績及び目標達成状況

【事務所】

項目	単位	12ヶ月間の目標	12ヶ月間の実績		目標達成状況
		2023年1月～ 2023年12月	2023年1月～ 2023年12月	削減率	
CO ₂ 排出量	kg-CO ₂	26,678	41,375	55.1%	×
電力使用量	kWh	11,247	16,149	43.6%	×
ガソリン	L	7,862	9,616	22.3%	×
軽油	L	645	3,148	388.1%	×
灯油	L	407	925	127.3%	×
液化石油ガス(LPG)	kg	8	17.0	112.5%	×
水使用量	m ³	158	263	66.5%	×
一般廃棄物排出量	kg	763	910	19.3%	×
社会貢献活動	回	12	12	—	○

- ・削減率は目標値に対する実績値
- ・電力のCO₂排出係数は四国電力実排出係数0.510kg-CO₂/kWhを使用（平成28年度実績値）・・・目標
- ・社会貢献活動は、ロードボランティア活動回数、現場は現場周辺の清掃活動実施にて算出
- ・1年間の目標値は、基準値に削減率をかけ算出

【現場】

項目	単位	12ヶ月間の目標	12ヶ月間の実績		目標達成状況
		2023年1月～ 2023年12月	2023年1月～ 2023年12月	削減率	
CO ₂ 排出量	kg-CO ₂	103,292	143,940	39.4%	×
電力使用量	kWh	0	40	—	×
ガソリン	L	6,434	9,781	52.0%	×
軽油	L	33,072	45,345	37.1%	×
灯油	L	82	148	80.5%	×
液化石油ガス(LPG)	kg	946	1,290	36.4%	×
産業廃棄物排出量	t	3,362	3,138	-6.7%	○
化学物質の把握	件	全件	全件	—	○
環境配慮型工法及び資材	件	全件	全件	—	○
社会貢献活動	件	全件	全件	—	○

- ・削減率は目標値に対する実績値
- ・電力のCO₂排出係数は四国電力実排出係数0.510kg-CO₂/kWhを使用（平成28年度実績値）・・・目標
- ・社会貢献活動は、ロードボランティア活動回数、現場は現場周辺の清掃活動実施にて算出
- ・化学物質については、取扱いについて周知徹底する
- ・環境配慮型工法及び資材は、請負金額2000万円以上の工事を対象とする
- ・1年間の目標値は、基準値に削減率をかけ算出

【産業廃棄物処理業】

項目	単位	12ヶ月間の目標	12ヶ月間の実績		目標達成状況
		2023年1月～ 2023年12月	2023年1月～ 2023年12月	削減率	
CO ₂ 排出量	kg-CO ₂	99,095	105,876	6.8%	×
電力使用量	kWh	14,294	12,261	-14.2%	○
ガソリン	L	184	210	14.1%	×
軽油	L	32,660	37,993	16.3%	×
灯油	L	2,857	340	-88.1%	○
液化石油ガス(LPG)	kg	0	0		
水使用量	m ³	36	69	91.7%	×
産業廃棄物再資源化率	%	100	98.5		×

- ・ 削減率は目標値に対する実績値
- ・ 電力のCO₂ 排出係数は四国電力実排出係数0.510kg-CO₂/kWhを使用（平成28年度実績値）・・・目標
- ・ 処分場における水利用は地下水のくみ取り、計測なし
- ・ 産業廃棄物再資源化率は、受入れた産業廃棄物に対して再資源化を行った割合とする
- ・ 1年間の目標値は、基準値に削減率をかけ算出

【総括】

事務所の電気量が増加しているが、これは、駐車場のポンプ交換に伴う電力契約の変更により増加したものである。また、軽油の増加は事務所管理の車両が増えたためなので、今回この数値を基に基準値を見直した。（文書 中長期目標3）

現場の燃料等が増加しているが、今年は受注した工事が多かったためである。

また、事務所現場ともに目標達成率が低い、取り組みとしては、例年どおり行ってきた。今年は完工高が基準年の2.85倍、自社施工も2.37倍となっており、原単位では基準値を下回る結果となっている。

産業処理業の燃料が増加しているが、これは残土処理場の整備に重機を使用したためである。

産廃処理業では、受入れ量は横ばいだが、目標達成しておらず、作業の効率化や省エネ機械の導入により、削減を目指します。

8. 環境経営計画の取組結果とその評価、次年度の環境経営計画

【事務所】

期間：2023年 1月 ～2023年12月

項目	具体的な取組結果	評価	見直し
電気使用におけるCO ₂ 排出量削減	・長時間使用しないOA機器は電源を切った。	○	継続する
	・使用しない電化製品のコンセントを抜く。	○	継続する
	・昼休み、退社時の消灯を徹底した。	○	継続する
	・空調の温度調整。(20℃～28℃)	△	再度徹底する
化石燃料使用量におけるCO ₂ 排出量削減	・急発進・急加速は行わなかった。	○	継続する
	・不要なアイドリングは行わなかった。	○	継続する
	・タイヤの空気圧、オイル等、車両の点検を定期的に行った。	○	継続する
	・長期退室時は、暖房器具の消火を行い、不必要な稼働は行わなかった。	△	継続する
一般廃棄物排出量の削減	・ゴミの分別を行った。	△	再度徹底する
	・両面コピー、両面印刷を行った。	△	再度徹底する
水使用量の削減	・蛇口の閉め忘れの確認を行った。	○	継続する
社会貢献活動	・ロードボランティア活動を行った。	○	継続する

【現場】

期間：2023年 1月 ～2023年12月

項目	具体的な取組結果	評価	見直し
化石燃料使用量におけるCO ₂ 排出量削減	・車両の始業点検、定期点検を行った。	○	継続する
	・重機・工事車両のアイドリングストップ。	△	継続する
	・重機作業は過剰な負荷をかけなかった。	△	継続する
電気使用におけるCO ₂ 排出量削減	・長時間使用しないOA機器は電源を切った。	—	該当なし
	・退社時の消灯を徹底した。	—	該当なし
	・電動工具の定期点検・整備を行った。	△	再度徹底する
産業廃棄物の削減	・再生材料（再生砕石等）を使用した。	○	継続する
	・マニフェストによる管理の徹底をした。	○	継続する
化学物質の把握	・資材の入荷量を把握した。	○	継続する
	・正しい取扱いを徹底した。	○	継続する
	・残った資材の処理及び方法を確認した。	○	継続する
環境配慮工事	・工事中の濁水流出の防止対策を行った。	○	継続する
	・工事中の騒音・振動防止対策を行った。	○	継続する
	・工事中の粉塵の飛散防止対策を行った。	○	継続する
	・ICT技術を取り入れて工期の短縮を行った。	△	継続する
県内産資材の使用	・資材購入にあたり県内産資材を購入した。	△	継続する
社会貢献活動	・現場周辺の清掃活動を行った。	○	継続する

【産業廃棄物処理業】

期間：2023年 1月 ～2023年12月

項目	具体的な取組結果	評価	見直し
化石燃料使用量におけるCO ₂ 排出量削減	・車両の始業点検、定期点検を行った。	○	継続する
	・重機、車両のアイドルストップ。	△	継続する
	・重機作業は過剰な負荷をかけなかった。	△	継続する
電気使用におけるCO ₂ 排出量削減	・長時間使用しないOA機器は電源を切った。	△	継続する
	・退社時の消灯を徹底した。	○	継続する
	・破砕機に過剰な負荷をかけなかった。	△	継続する
産業廃棄物排出量の削減	・分別処理の徹底を行った。	○	継続する
	・再資源化(リサイクル)の促進をした。	○	継続する

■評価方法、区分と基準： ○良好 △要経過 ×要訂正

評価方法は、毎月実施の環境活動パトロールにより点検を行い、その結果を評価とする。

■次年度（2024年1月～2024年12月）についても、今回の取組内容を継続して実施するものとする。

9. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

(1) 主な環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果

法規名	規制内容	実施内容	遵守状況
廃棄物処理法	産業廃棄物の委託処理	<ul style="list-style-type: none"> ・委託契約の締結、許可確認 ・マニフェストの交付、回収、照合 	遵守
リサイクル法	産業廃棄物指定副産物	<ul style="list-style-type: none"> ・発注者への書面による計画等説明 (再生資源利用促進計画書等を確認) 	遵守
家電リサイクル法	特定家庭用機器の排出	<ul style="list-style-type: none"> ・小売店への引渡し、又は自治体指定の方法で引き取り依頼する 	遵守
建設廃棄物処理マニュアル	産業廃棄物の処理、委託	<ul style="list-style-type: none"> ・マニフェストに基づく適正処理の実施 	遵守
指定副産物利用促進省令	建設副産物が発生する建設工事	<ul style="list-style-type: none"> ・再生資源利用計画、再生資源利用促進計画の作成、実施状況の記録を1年間保管 	遵守
オフロード法	協力会社の持込み建設機械について	<ul style="list-style-type: none"> ・各工事での対策機械を適合証明等により確認 	遵守
騒音規制法	杭打ち機、びょう打ち機、削岩機、空気圧縮機等を使用する作業	<ul style="list-style-type: none"> ・特定建設作業の届出 ・作業敷地境界にて85db以下 	遵守
振動規制法	杭打ち機、杭ぬき機、ブレーカー、舗装版破碎機を使用する作業	<ul style="list-style-type: none"> ・特定建設作業の届出 ・作業敷地境界にて75db以下 	遵守
四万十川条例	生態系及び景観の保全への配慮	<ul style="list-style-type: none"> ・自然が有する浄化機能や流出形態の保全向上や、生物の生息・生育場所の保全、復元 	遵守
高知県四万十川流域環境配慮指針			

(2) 環境関連法規等の違反、訴訟等の有無

過去3年間、環境関連法規等への違反、訴訟はありません。

10. 代表者による全体評価と見直し・指示

作成者：星野 努

作成日：2024年 3月25日

代表者による全体の評価と見直し記録

<input checked="" type="checkbox"/> 定期見直し（事業年度終了後） <input type="checkbox"/> 臨時見直し 実施日 2024年 3月25日	代表者	環境管理責任者
	金谷 光人	星野 努

見直しに必要な情報			代表者による見直し		
管理責任者の報告及び改善への提案			変更の必要性の有無・指示事項		
[取組み状況の評価結果] ①環境関連法規制等の遵守状況 ・3月22日に評価を実施した結果遵守されている。 ②問題点の是正処置及び予防処置の状況 ・是正 0件、予防 0件 ③前回までの代表者の指示事項への対応 ・なし			[環境経営方針] 変更の必要性： <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無		
[環境経営目標・環境経営計画の達成状況]			[環境経営目標・環境経営計画]		
目標項目	達成状況		変更の必要性： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無		
	事務所	現場			コメント
CO2排出量の削減	×	×			作業手順の見直しや省エネ機械導入により削減に取り組む
産業廃棄物量の削減	—	×			削減と適正処理に積極的に取り組む
社会貢献活動	○	○	毎月のゴミ拾いを今後も行う		
[周囲の変化の状況] ①リサイクル工場 ・エコアクションに取り組むことにより、整理・分別が意識されリサイクルの促進につながっている。 ②電気、水使用量の削減 ・こまめな電源オフなど、今後も意識の部分から取り組んでいきたい。			[実施体制] 変更の必要性： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無		
代表者が自ら得た情報			[総括]		
			基準年に対して目標を達していない項目があった。 これは自社の受注工事の件数が増えた事による現場での燃料費使用量の増加、また自社所有の車両の増加が原因だと思ふ。今回基準値の見直しを行い、来年以降の目標値を決めたので、この数値に近づけるよう努力していきたいと思ふ。また更に削減できるように作業手順の見直しをし、全社員に徹底していきたいと思ふ。 省エネ機械の導入も考えている。 産業廃棄物処理業においては、できる限り再生・分別に努めて、少しでも目標に近づけるように、取り組んでいきたい。 今回、住民からのダンプ走行に対する騒音の苦情があったので、対策を行ったが、今後も引き続き周知徹底をして、住民の方に迷惑をかけないよう、努力していきたいと思ふ。		